

介護保険による戸建て住宅の 屋内外改修事例に見る手すり設置のポイント



さいとう かずのぶ
齊藤 一修さん

齊藤建築代表

大工

地元大手建設会社の現場監督から工務店に転職し、大工の経験を積む。その後、30代で“一人親方”の大工として独立し、9年前に仕事の幅を広げるべくFJC 2級検定試験に合格。新築、リフォーム、エクステリア等のさまざまな事例を手がける。愛知県在住。

高齢者・障害者の住環境整備で最も

需要が高いのが「手すり」の設置です。

本当に必要な方にとって手すりとは、大げさではなくまさに「命綱」と

も言うべきものです。ときに全体重を

かけて体を預ける一本の手すり。その

位置、強度、形状は非常に重要で、専

門家の腕の見せどころでもあります。

今回の改修を担当する齊藤一修さん

は、FJC 2級の大工。氏のこれまでに

に手がけた手すり設置事例を、そのポ

イントとともに紹介します。

同業者と何度も勉強会を

開催し検討。ペーパーホルダーと

手すりのベストな位置関係とは

トイレの手すりとはペーパーホルダー

の位置関係については、以前、FJC

仲間との勉強会でも常に課題に上が

り、ああでもないこうでもないと議論

手すりペーパーホルダーを活用し、
限られたスペースを有効に

ケースその1

トイレ



①「スペースと条件が許すならば、この配置が理想形」と齊藤氏。このトイレの改修の依頼主は右片麻痺の方。手すりペーパーホルダーは肘で体重をかけられるよう壁を補強。反対側のL字手すりです立ち上がった後は、立ち位置に合わせた横手すりをつたい戸口まで歩く。

②横手すりの代わりに手すりペーパーホルダーを配置した。

③幅狭で、手すりペーパーホルダーが立ち上がりのじゃまになるため、便座横には肘掛け手すりを設置。



ペーパーホルダーの 位置がよくない例

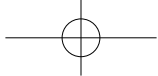
④下に垂れる予備のロールが手すりをじゃましています。

⑤ペーパーホルダーに体重をかけてしまうと、このタイプでは強度が足りず危険。

⑥ペーパーホルダーも手すりも使いづらい。

※⑥は齊藤氏が撮影した近くのスーパー内のトイレ





したものです。結局、上部の板が手すりの役目も果たす手すりパーホルダーを上手に活用するのがベストとの結論に達しました(写真①～③)。たかがパーホルダー、されどパーホルダーです。障害のある方にとっては、ほんの数cmの差でも、体勢が不安定になったり、届かなかったりする。トイレの使い勝手が悪いと、その方の生活、人生の質を左右してしまいます」と、斉藤さんは語ります(パーホルダーの位置がよくない例は写真④～⑥参照)。

確かに、トイレの自立は人間の尊厳にかかわる問題です。使い勝手が悪いとトイレに行くのが億劫になり、水分摂取を控えるようになってしまったら健康状態にも影響します。生活の質は落ちるでしょう。その点、和室の押し入れをトイレに改修した例(写真⑧)は、実用性に富み、依頼主の自立度を上げる効果もあります。

実際、斉藤さんの改修により、「一人でトイレに行けるようになって、こんないいことはない。ありがとう」と、依頼主は涙を流して喜んでそうです。

また、段差の大きな古民家に暮らす依頼主からは、段差解消と手すりの設置(写真⑫)で「もう無理だと思っていたけれど、これならまだ自宅で暮らせる」と言われたそう。

段差の多い古民家でも工夫しだいで快適に



⑪土間から上がり框の段差は約40cm。ひとり暮らしのご高齢者には厳しい環境。



⑫奥の台所と向かって左側の居間がバリアフリーになるよう床面を新設。階段と手すりでも楽に上がれるようにした。

長い廊下。サッシの部分には跳ね上げ手すりを



⑬老人ホームの長い廊下に手すりを設置。表へ出入りするサッシ部分は跳ね上げ手すりにして、出入り際には開けて⑭使う。認知症の方が外へ出るのも予防できる。



ケースその2

屋内

和室の押し入れを改修しトイレを新設

⑦寝室として使う和室の押し入れ(幅約180cm×奥行90cm)をトイレに改修。

⑧⑦のでき上がり。ふすまを3枚引き戸にし、手すりを設置。和室は洋室へと改修した。



和式トイレから洋式トイレへ

⑨昔ながらのタイプの和式便座。

⑩便座を撤去、洋式便座に交換し、L字手すりと横手すりを設置。これだけの行程を依頼主がデイサービスに出かけている間に仕上げた。



現場の環境と依頼主の個性に
臨機応変に対応

介護保険制度が施行され16年がたちますが、「いまだに、明らかに知識のない業者による施工で、依頼主の体や麻痺の態に合わない手すりを見かけます」と、斉藤さんは言います。

たとえば、写真⑮のケース。「すでに行われていた介護保険による手すり設置が、首を傾げたくなるようなもので驚きました。手すりの高さがご本人の身長に合う本来の高さよりも10cmも低く、危険このうえないのです。しかも、設置は向かって左側のみ。依頼主は左片麻痺の方でしたから、上るときには、奥様に支えてもらいながら横歩きで上がっていました」

結局、斉藤さんが担当した二度目の工事は、全額依頼主の自己負担となりました。改めて、施工業者選びの重要性を再認識するとともに、行政指導「FJCによる啓蒙活動の必要性も感じる」と斉藤氏は指摘します。

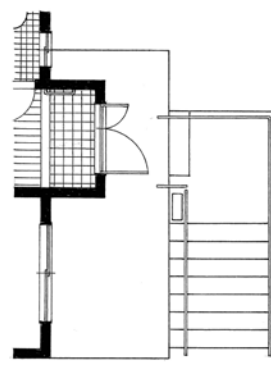
その他、出入口や通路にあたる部分は跳ね上げ手すり(写真⑯・⑰)を選べば、手すりも動線も両方の用途をあきらめずに済むというアイデアや、大工ならではの技術力を生かした湾曲手すり(⑱)など、現場と依頼主の個性に臨機応変に対応した事例ばかりでした。

(取材・文／安藤直子)

ケースその3

屋外

景観を損ねず
実用性・安全性も兼ねた
屋外手すりの工夫例



⑮新たに依頼主の身長に合わせ、高さ70cmの手すりを左右に設置。もとは向かって左側のみ(しかも高さは60cm)で、依頼主には低く危険だった。



⑯前頁の写真⑬・⑭と同様、人が出入りする部分は跳ね上げ手すり(⑰)にして対応。



⑱湾曲した手すり。趣ある重厚な石階段のイメージを損なわないよう、手すりの色合いにも配慮した。

⑲玄関から大回りせず駐車場へすぐ出られるよう、居室の外にウッドデッキを新設。踏み台と手すりですがり下りも安全。